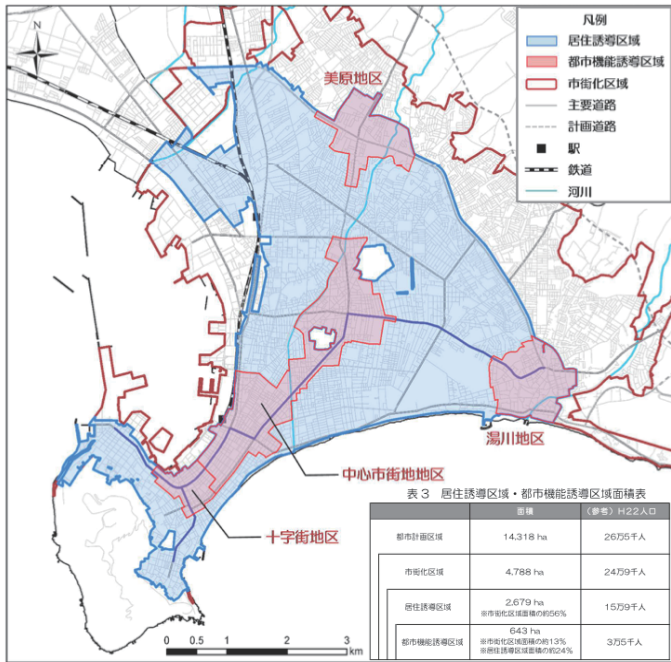


05 地方都市・立地適正化研究

Study on Provincial City and Location Normalization Plan

持続可能な地方都市のあり方を考える

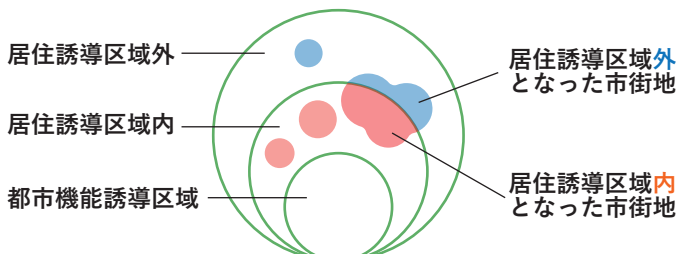


これまでの活動

本研究室では、他大学も交えて 2015 年度から 2018 年度まで、函館市を対象に市街地の基礎的調査を行うことで、これからの時代に求められる新しい居住の場・住まい方のあり方について知見を得るための研究を行ってきた。2019 年 3 月には、3 年間のまとめとして、函館で公開研究会を執り行い、専門家や一般市民への研究発表と意見交換を行った。

今年度の活動の目的

近年、我が国では都市政策としてコンパクトシティを指向し、都市の集約化を図っている。H26 年には立地適正化計画の策定が法的に位置付けられ、既成住宅市街地を居住誘導区域の内と外に分けることとなった。本調査研究では、立地適正化計画の分析や典型的な地方都市へのヒアリング調査を行うことで、居住誘導区域の設定が人々の生活にどのような影響を与えるか考察し、地方都市のあり方を考えていく上での基礎的かつ重要な知見を得ることを目的に活動する。



■活動地域

立地適正化計画作成都市（約 250 都市）

■活動期間

2019 年 4 月～継続中

■活動体制

工学院大学 野澤研究室／星研究室

■活動キーワード

人口現象／少子高齢化／コンパクトシティ／地方都市
立地適正化計画

■2019 年度活動メンバー

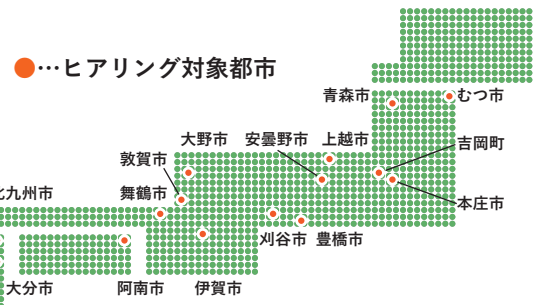
M1：浅川遥友、宮崎裕子

B4：生山雄基、松村叡英



研究の対象都市

本調査研究では、全国自治体の立地適正化計画を総体として分析するために、2019 年 5 月 1 日時点で立地適正化計画を作成している 247 都市を対象として研究を進める。中でも、居住誘導区域を市街化区域に対して狭く設定している都市や、居住誘導区域外に対して独自の考え方を持っている都市、積極的な居住誘導を行なっている都市などは事例研究の対象として選定し、ヒアリング調査を行う。



今年度の活動内容

【計画書の読み取り】

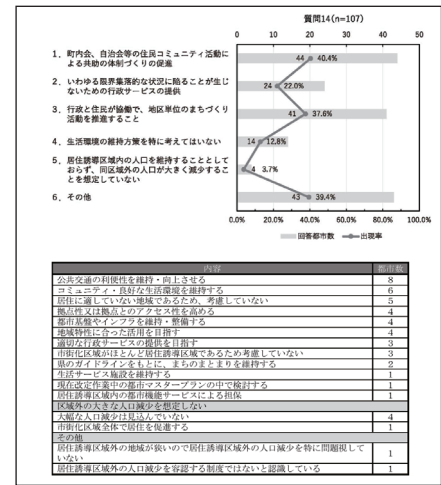
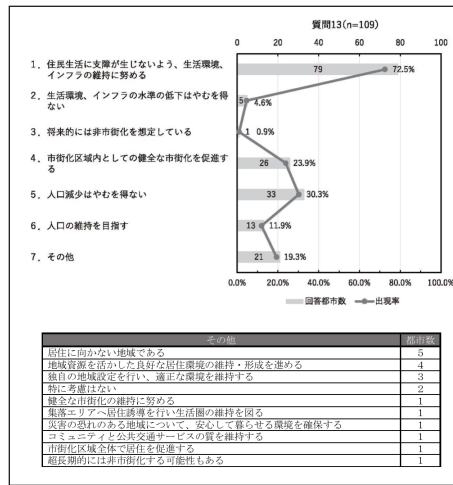
Web を中心として収集した立地適正化計画のドキュメントから、居住誘導区域の範囲やその設定の理由等を読み取り、市街化区域の範囲・人口のデータ等との比較分析を行った。そこから居住誘導区域と市街化区域の面積比・人口比毎に分類し、全国自治体の指定状況を分析・考察する際の参考とする基礎資料を作成した。

ID	ID・名前	計画の目的	期待される効果 (本文より)	市街地実態	面積 (ha)
2				市全体人口 (人)	
3				1,940,000	25,107
4	001 北海道 札幌市	市街地区に応じた人口密度の適正化や、公共交通を軸とした各種都市機能の適切な配置を図る		265,979	4,788
5	002 北海道 函館市	今後の人口減少や少子高齢化が進む状況のなかでも持続可能な都市運営ができるまちづくりを推進		339,605	7,957
6	003 北海道 旭川市	これまでに整備してきた都市基盤や都市機能をはじめとする既存ストックを有効に活用しながら、		84,991	3,596
7	004 北海道 室蘭市	課題に対応するためには、一定の地区への生活利便施設や居住の誘導を図るための取り組みを定		5,272	987
8	005 北海道 釧路市	重点目標 1 便利なまちなか複数の拠点が相互に市街地の拡大や新たな商業圏の形成を抑制しながら、			
9	006 北海道 美瑛市	①居住誘導の推進 将来の人口減少を見据え、本市の市街地に一定の人口を維持していくため必			
10	007 北海道 北広島市	人口減少に対応したまちづくり			
11	008 北海道 福島町	誘導方針① 公共施設・都市基盤ストックを活用した賑わいある市街地整備 公共施設・都市基盤		4,422	100
12	009 北海道 八雲町	町全体のまちづくり方針として、「子育て世代も集まれる多世代交流型拠点づくりにより、誰もが		17,252	
13	010 北海道 古川町	まちなかの賑わい再生と 地域資源を生かした経済① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳		3,188	143
14	011 北海道 鹿越町	基本理念① 「安全・安心なまち」へ安全で安心して暮らしていただけるまちを再建する。基本理念		7,076	
15	012 北海道 東神楽町	1. 旭川圏・大雪山などの環境を活かした都市基盤の形成 本市の旭川市に隣接し、旭川空港を有		10,233	256
16	013 北海道 芽室町	基本方針 1 まちなかに住める空間を確保する 芽室町の市街地は、「JR芽室駅前を中心に段階的な		18,484	
17	014 青森県 青森市	ア安全で安心して暮らせるまち 冬期における安全な歩行環境の確保や各種公共交通の円滑化を図		270,000	5,333
18	015 青森県 弘前市	都市計画マスタープランの高度化を図り、新たな魅力や都市機能の導入、既存の都市施設を生か		176,102	2,830
19	016 青森県 八戸市	コンパクト＆ネットワークの都市構造の形成を最重要項目として取り組む		231,000	
20	017 青森県 黒石市	①回遊性の高い魅力ある拠点づくりと、活力・暮らしやすさの向上。◆中心市街地の回遊性を高め		55,234	
21	018 青森県 五戸川原市	①五戸川原市立地適正化計画は都市機能や居住の適正な立地を促進すること、②コンパクトな		55,181	735
22	019 青森県 十和田市	①都市機能や「居住」がコンパクトに集まる、公共交通体系の再構築により「都市機能」と		83,400	
23	020 青森県 むつ市	人口減少・超高齢社会の中での、公共交通、インフラ整備、公共施設の配置、そして土地利用な		35,774	815
24	021 岩手県 花巻市	公共交通による都市機能集約の推進を図る中心拠点や地域拠点、生活拠点(地域の拠点)と		101,319	2,246
25	022 岩手県 北上市	「あじさい都市」における都市拠点の形成、京一都市機能の集約と地域連携による持続可能な		93,511	
26	023 宮城県 大崎市	各地域の商業・医療・教育等の都市機能を集約し立地適正化計画の活用により子育て世代や若者を			
27	024 秋田県 秋田市	第2次秋田市総合都市計画の将来都市構造に位置付ける「部・中心市街地」の具		316,000	
28	025 秋田県 横手市	美しい雪国の自然条件、人口減少・少子高齢化が進む中で、市街地の拡大や中心部の空洞化が		92,197	
29	026 秋田県 大館市	未来を担う若者が主人公となるまちなかの遊歩道・リノベーションによりまちなかの既存ストック		74,175	記載なし
30	027 秋田県 湯沢市	人口が減少する中であっても市街地の多様な機能1都市計画区域内の平均的な下落抑制 都市計画		27,102	716

【アンケート調査】

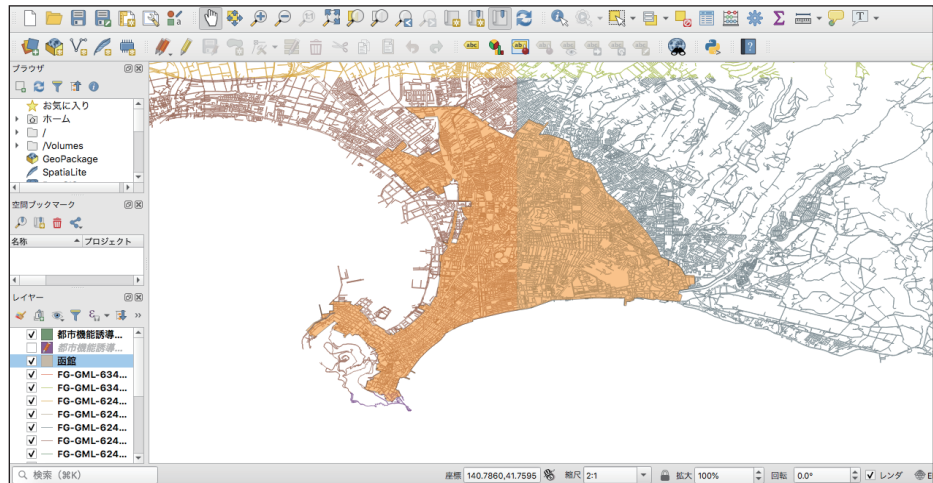
2019年5月時点で立地適正化計画を作成している247都市に対し、計画作成の経緯や居住誘導区域の設定について、詳細を把握するためにアンケート調査を行った。(回答率は66.80%)

得られた回答をもとに、居住誘導区域外に対し独自の考えを持っている都市や、積極的な誘導策を講じている都市を抽出し、事例調査の対象を選定する際の参考とした。



【GISによる作業】

計画書やアンケートからは読み取れない情報を把握するため、立地適正化計画に記載されている誘導区域の範囲図と国土地理院基盤地図情報を使用し、対象とする247都市の居住誘導区域と都市機能誘導区域のポリゴンデータを作成した。これにより、居住誘導区域内外の人口動態など、数値情報をビジュアル的な情報として把握できるようになった。



【ヒアリング調査】

計画書の内容把握やアンケート調査から、事例調査に適した都市を抽出し、12月から1月の期間に全16都市へヒアリング調査を行った。ヒアリング調査では、計画書やアンケートで気になった点や不明点、計画実現へ向けた都市計画制度と立地適正化計画制度の運用のあり方などを明確にした。調査結果は各対象都市別にカルテを作成し、それぞれの都市の特徴が分かりやすいようにまとめた。

